

広島(香川県丸亀市)で採集している。四国初記録となることに加え、広島の採集例は本種の生態を考えると興味深い事例と思われるので、記録を報告する。



写真. 香川県東かがわ市産ヒラタコメツキモドキ(スケールバーは0.5 mm)。

1♂, 香川県東かがわ市五名, 14. IX. 2006, 亀澤採集, 保管(写真); 1♂, 香川県丸亀市広島町江の浦, 29. VII. 2023, 藤本採集, 保管

東かがわ市では、枯死した広葉樹(樹種不明)倒木の樹皮下から採集した。また丸亀市広島では、果実用ネットに吊るして二次林脇に設置したバナナトラップ(2013年7月27日設置)の果肉内に潜り込んでいた個体を

採集した。本種は枯れ木から得られることが多く、フォグギングによる採集が効果的という(青木・平野, 2012)。また、灯火(青木・平野, 2012; 城戸, 2017; 斉藤ら, 2017)や落葉篩い(山地, 2006)、枯れたシダ積(佐々治, 1990)から得られた例もある。しかし、果実トラップもしくは熟果から得られた例は筆者らの知る限りなく、初めての事例になると思われる。なお、この時トラップに使用したバナナは、市販のドライイーストを加えた上で、蓋つきポリバケツ内で約10日間常温保管していたもので、トラップ設置前には、腐敗して溶け出した果汁の表面にカビ類が生えているのが認められた。本種の食性は不明であるが(松尾進氏私信)、本種が所属する *Cathartocryptus* 属は微小菌食性であるとされている(Leschen & Buckley, 2007)。もし本種も食菌性であれば、バナナトラップに含まれていた菌類に誘引された可能性も考えられる。また本種は体長2ミリ程度で、バナナトラップで主な採集対象となるクワガタムシやハナムグリ類に比べると極めてサイズが小さい。筆者が果肉内から見出した時もほとんど動かなかったこととあわせて考えると、これまでの調査で見過ごされてきた可能性もある。しかしこれらの考えは推測の域を出ないもので、今後本種の生活史に関する知見の蓄積が待たれる。

末筆になったが、松尾進氏には本属の食性に関する論文をご教示いただいた。また三宅武氏には、本種の採集状況についてご教示いただいた。ここに記し、厚くお礼申し上げる。

引用文献

- 平野幸彦・青木淳一, 2012. ヒラタコメツキモドキの採集記録とその分布. さやばねニューシリーズ, (6): 13-15.
 城戸克弥, 2017. 福岡県のヒラタムシ上科. KORASANA, (86): 41-126.
 Lechen, R. & T. Buckley, 2007. Multistate characters and diet shifts: evolution of Elotylidae (Coleoptera). Systematic Biology, 56 (1): 97-112.
 斉藤明子・尾崎煙雄・宮野伸也・鈴木 勝・斉藤 修・村川功雄・倉西良一, 2017. 東京大学千葉演習林(千葉県南部清澄山系)の昆虫相. 千葉中央博自然誌研究報告特別号, (10): 61-232.
 Sasaji, H., 1989. Discovery of the curious beetle genus *Xenoscelinus* Grouvelle Languriidae - Cryptophilinae) from Japan. Kanagawa Chūhō, (90): 223-228.
 佐々治寛之, 1990. ヒラタコメツキモドキ発見のいきさつ. 月刊むし, (235): 33.
 山地 治, 2006. 岡山県から採集した甲虫の記録. すずむし, (141): 19-20.

(藤本博文 760-0005 高松市宮脇町1-17-4)

(亀澤 洋 350-0825 川越市月吉町32-17)

【短報】礼文島と利尻島におけるキンケクチブトゾウムシの新記録

キンケクチブトゾウムシ *Otiorhynchus sulcatus* (Fabricius, 1775) は、観賞植物であるベゴニア *Begonia* spp. やシクラメン *Cyclamen persicum* などの害虫であり、中央ヨーロッパ原産で、現在は北アメリカ、オーストラリア、ニュージーランドなどにも分布する(松谷・真崎, 1983)。

キンケクチブトゾウムシは、日本国内では1980年に静岡県駿東郡小山町から初めて記録され(松谷・真崎, 1983)、これまでに北海道と本州から記録されていた。現在知られている北海道内の分布状況は図1の通りである。本種は日本の特定重要病害虫の一つに挙げられおり(細川, 1980)、きわめて高い低温適応性を持つため、北海道の寒冷な気象条件も生育の制限要因にはならないと考えられている(奥山ら, 1996)。

分布新記録となる礼文島と利尻島における本種の採集記録を報告する。

キンケクチブトゾウムシ(図2)

調査標本: [礼文島], 1 ex., 礼文町香深村香深井~宇遠内, 23. VIII. 2023. 柏崎昭採集; 2 exs., 礼文町香深村香深井, ライトトラップ, 14. VIII. 2023, 山田良純採集; [利尻島], 3 exs., 利尻町杵形岬, 12. VIII. 2023, 山田良純採集; 1 ex., 利尻町杵形字蘭泊, 13. VII. 2021, 柏崎昭採集; 1 ex., 利尻富士町オタドリ沼, 3. VII. 2019,

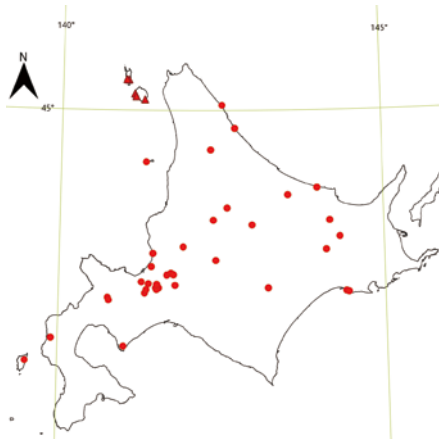


図1. 北海道におけるキンケクチプトゾウムシ *Otiorynchus sulcatus* の分布。●：文献記録，▲：本研究による記録。文献記録は、北海道病害虫防除(1994)、奥山ら(1996)、佐々木(1999, 2000)、畔原(2001, 2004)、飯島(1999, 2004)、堀(2005)、堀・的場(2005)、柏崎(2006)、中谷(2010)、中谷・松本(2011)、中谷ら(2011)、Morimoto *et al.* (2015)、佐々木ら(2015)、中谷・柏崎(2019)、大木ら(2023)に基づく。



図2. 利尻島で採集されたキンケクチプトゾウムシ *Otiorynchus sulcatus*.

柏崎昭採集；1 ex., 利尻富士町鬼脇, 12. VIII. 2023, 山田良純採集。

調査標本は、Morimoto *et al.* (2015) に基づき、黒色で、吻が太く短く、前胸部は円筒状で大きな顆粒で覆われていること、上翅に金色微細鱗毛による小さな斑紋を散在していることからキンケクチプトゾウムシと同定された。

本種は後翅が退化しているので飛ぶことはなく、歩行により分散する(森本, 1988)。本種は鉢植え植物として流通ルートに乗りやすい観賞植物に発生することから(松谷・真崎, 1983)、礼文島と利尻島に分布する個体も観賞植物由来である可能性がある。なお、両島のゾウムシ科の記録は堀(2003)によって整理されたが、本種は記録されていなかった。

図1は国土交通省の「国土数値情報(行政区域データ)」(https://nfltp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-N03-v3_1.html)を加工して作成した。図の作成に協力して下さった帯広畜産大学の開澤菜月氏、および発表にあたり便宜を図って下さった利尻町立博物館の佐藤雅彦氏にお礼申し上げる。

引用文献

- 北海道病害虫防疫所, 1994. 平成5年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫. 北農, 61: 146-155.
- 堀 繁久, 2003. 利尻島・礼文島のゾウムシ類. 利尻研究, (22): 73-78.
- 堀 繁久, 2005. 野幌森林公園へ侵入した外来昆虫. jezoensis, (31): 65-68.
- 堀 繁久・的場 績, 2005. 奥尻島のゾウムシ上科. 利尻研究, (24): 79-93.
- 細川延英, 1980. 特定重要病害虫の検疫. 植物防疫, 34 (8): 26-31.
- 飯島一雄, 1999. 北海道東部の鞘翅目・ゾウムシ類. 標茶郷土館報告, (11): 69-103.
- 飯島一雄, 2004. 北海道東部の鞘翅目追加資料・ゾウムシ類. 標茶郷土館報告, (16): 121-125.
- 柏崎 昭, 2006. 天売島甲虫相調査報告. jezoensis, (32): 15-28.
- 畔原一夫, 2001. 美幌川上流の昆虫相調査 (II). 美幌博物館研究報告, (9): 73-82.
- 畔原一夫, 2004. 美幌川上流の昆虫について II (網走郡美幌町古梅・シービホロ林道). jezoensis, (30): 165-172.
- 松谷茂伸・真崎 誠, 1983. キンケクチプトゾウムシの生態と防除. 植物防疫, 37 (9): 16-22.
- 森本 桂, 1988. 日本へ侵入したゾウムシ類の見分け方と被害. 農業研究, 35 (1): 28-44.
- Morimoto K., T. Nakamura, & K. Kannō, 2015. The Insects of Japan Vol. 4 Curculionidae: Entiminae (Part 2) (Coleoptera). The Entomological Society of Japan, Touka Shobo, Fukuoka.
- 中谷正彦, 2010. 釧路市内住宅街の甲虫類. Sylvicola, (28): 83-86.
- 中谷正彦・平間裕介・松本堅一, 2011. 春採湖の昆虫相 V コウチュウ目. 中谷正彦・一條信明(編). 釧路市春採湖の昆虫 Sylvicola・別冊 V. pp. 53-72, 117-137, 釧路昆虫同好会, 釧路.
- 中谷正彦・柏崎 昭, 2019. 和琴半島の昆虫相 IV コウチュウ目. 道東昆虫研究所(編), 弟子屈町屈斜路湖畔 和琴半島の昆虫 道東の昆虫と自然・別冊. pp. 15-47, 98-159. 道東昆虫研究所, 釧路.
- 中谷正彦・松本堅一, 2011. 阿寒国立公園の昆虫 IV. Sylvicola, (29): 51-75.
- 大木 裕・内藤準哉・松本忠之・芳賀 馨, 2023. 枝幸郡枝幸町周辺の甲虫相 その2. 枝幸研究, (14): 11-42.
- 奥山七郎・岩崎暁生・小野寺鶴将, 1996. 北海道におけるキンケクチプトゾウムシの発生と生態的知見. 北農, 63 (2): 59-72.
- 佐々木恵一・松本英明・鈴木敏春. 志藤 宏・石田浩司, 2015. 北海道オホーツク管内北見市常呂栄浦の甲虫相. jezoensis, (41): 69-117.
- 佐々木邦彦, 1999. 北海道俱知安町の甲虫類 (I). jezoensis, (26): 113-128.
- 佐々木邦彦, 2000. 北海道俱知安町の甲虫類 (II). jezoensis, (27): 49-56.
- 保田信紀, 2017. 北海道上川町産甲虫目録 (追加種, 2). jezoensis, (43): 80-90.
- (友田壮祐 080-8555 帯広市稲田町西2線11番地 帯広畜産大学昆虫学研究室)
- (山田良純 080-8555 帯広市稲田町西2線11番地 帯広畜産大学昆虫学研究室)
- (山内健生 080-8555 帯広市稲田町西2線11番地 帯広畜産大学昆虫学研究室)
- (柏崎 昭 001-0000 札幌市北区)